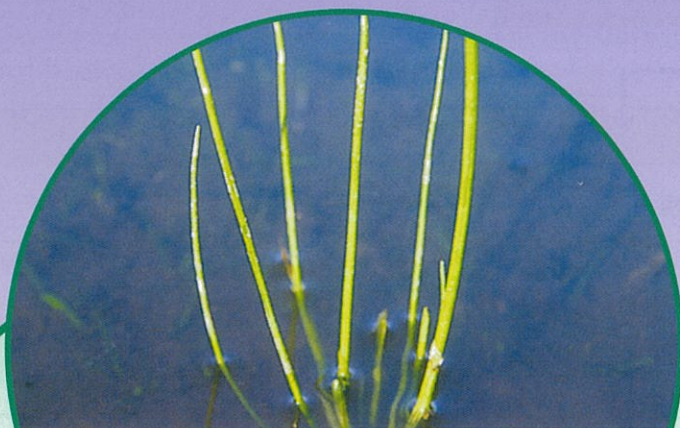


水稲用初期除草剤

デマカットフロアブル®



クログワイ

塊茎からの発生深度が深く、
発生期間も長期にわたるので
体系防除が良い。

最近の 問題雑草



アメリカアゼナ

発生時期が遅いため、除草剤単用
処理では残効切れによる後次発生
が多いので、体系防除が良い。



イヌホタルイ

SU抵抗性ホタルイは発生が早く、薬剤
の処理適期が短いので、有効な初期
剤を早目に処理する体系防除が良い。

一発剤なみのペントキサゾンでノビエ、コナギにも高い効果！

問題雑草に幅広く効く高性能の初期除草剤！



無処理区



デマカットフロアブル処理区

試験概要

試験地：兵庫県柏原農業改良普及センター

田 植 え 日：平成10年5月10日(+0)

デマカットフロアブル処理日：

平成10年5月5日(-5)

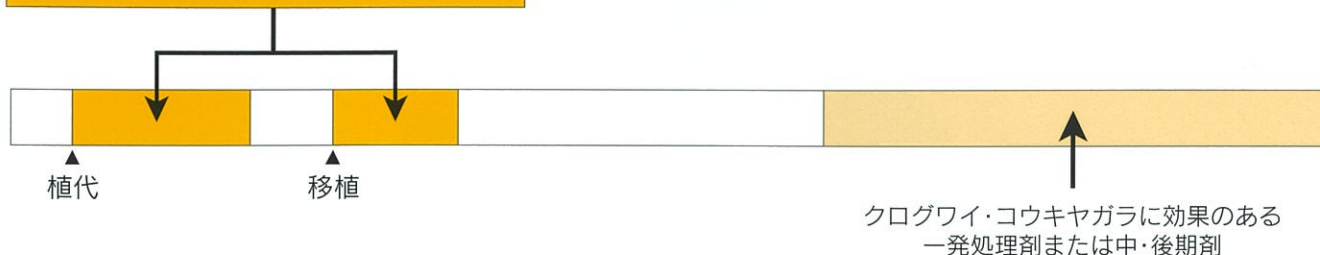
中期剤処理日：平成10年6月4日(+25)

抜き取り調査日：平成10年6月8日(+29)

成 分	ダイムロン……………28.0% ベントキサゾン………7.2%
-----	-----------------------------------

クログワイ・コウキヤガラの防除例(一般的な体系処理でOK)

テマカットフロアブルの散布時期



クログワイ・コウキヤガラの防除のポイント

多年生雑草のクログワイ／コウキヤガラは発生時期が不揃いで、そのうえ発生が長期におよびます。一発剤のみでの防除は非常に困難であるため、初期剤と初中期一発剤／中期剤との体系防除が有効です。テマカットフロアブルはこれら多年生雑草の初期の生育を抑制するため、体系処理で使用する初中期一発剤や中期剤の効果を高めることが出来ます。

使用方法

- 10アール当たりボトル1本(500ml)です。
- 使用前にボトルをよく振ってください。
- 散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。

処理方法

- 手振り散布
- 畦畔から約2～3m(3～4歩)ごとに1回、水田に向けて振り込んでください。
- ボトル1本を約30回程度振ると、ほぼ空になります。

効果・薬害等の注意

- 本剤は貯蔵中に暗褐色の上澄液が分離することがあるので、使用に際しては容器をよく振る。
- 本剤は雑草の発生前から生育始期に有効なので、田植え同時期からノビエの1葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にブレが出るので必ず適期に散布するよう注意する。ホタルイ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、コウキヤガラに対しては、発生前から発生始期まで、クログワイおよびシズイは発生前が本剤の散布適期である(効果)。
- クログワイ、コウキヤガラおよびシズイは発生期間が長く、遅い発生のもので十分な効果を示さないで、有効な後処理剤と合わせて使用すること。
- 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を水田全面にゆきわたるように散布する。

適用雑草と使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール当たり使用量	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ヘラオモダカ クログワイ (北海道を除く) コウキヤガラ (東北・関東・東山・ 東海、九州) シズイ(東北)	植代後～ 移植前7日 又は 移植直後～ ノビエ1葉期 ただし、移植 後30日まで	砂壤土～埴土	500ml	原液湛水 散布 又は 水口施用	全域
		移植時			田植同時 散布機で 施用	
		植代時 (移植7日前 まで)			植代時に 原液のまま 散布し 混和する	全域(北海道 を除く)の 普通期栽培 地帯及び 関東・東山・ 東海、九州の 早期栽培地帯
直播水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ	湛水直播の 代かき時 (は種7日前 まで)	埴土～埴土	300ml	代かき時に 原液のまま 散布し 混和する	全域(北海道 を除く)
		湛水直播の 代かき後～ は種前7日			原液湛水 散布	

【総使用回数】

ダイムロンを含む農薬の総使用回数	移植水稲は3回以内(育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)
ベントキサゾンを含む農薬の総使用回数	2回以内
本剤の使用回数	1回

- 散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(湛水3～5cm程度)を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないように注意し、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- 苗が水没するような深水状態では葉鞘部に軽い褐変症状が出るおそれがあるので、水管理に注意する(薬害)。
- 軟弱徒長苗を移植した水田、極端な浅植えや深植えをした水田及び砂質土で漏水の大きな水田では、使用しない(薬害)。
- 直播水稲に使用する場合は、出芽時に湛水条件になると薬害が生じることがあるので、水管理に注意する(薬害)。
- れんこん、くわい、せりなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意する(薬害)。

●ラベルをよく読む。 ●ラベルの記載以外には使用しない。 ●小児の手の届くところには置かない。